

Fuji Champion Race Series Round 1

2024.4.13 SAT - 14 SUN



Formula Beat
Round 2



JAF-F4から改称して2シーズン目のフォーミュラ・ビートは、第2戦を富士で迎えた。雨の鈴鹿で#6酒井翔太が、衝撃のデビューウィン飾ってから1か月あまり。その#6酒井を抑え、ポールポジションを奪ったのは、スポット参戦の#81ト部和久と#27徳升広平だ。「100点ではなく、80点ぐらいのラップでしたが、ベストには近い状態で走れました。練習の時から、すごくセットアップは進められていて、練習の組み立てとしては満足しているので、このままいい結果で終わりたいです」と、#81ト部は昨年のランキング2位として意地を見せた。そして#27徳升も「昨日エンジンがドーンと逝っちゃって、メカニックさんが徹夜で直してくれたので、結果でお返ししたいと思います」と語っていた。

決勝では予選5番手だった#9 KAMIKAZEがスタートでエンジンをストールさせ、後続車両が避けきれず、ともにリタイア。回収のため、セーフティカーが2周にわたって導入される。リスタートも#81ト部が完璧に決め、スタンド前に戻ってくると、すでに#27徳升に対し1秒半の差が。ファステストラップの連発で、その後もさらに逃げ続けていった。

3番手争いが激しく、最初のスタートでひとつ順位を上げた#86椎橋祐介と#6酒井、#16 ISHIKEN、#11植田正幸が縦一列に。まずは5周目の13コーナーで#6酒井が#86椎橋の前に出て、さらに7周目には#11植田も5番手に浮上する。逆に#16 ISHIKENには、スタート手順違反のペナルティとして10秒加算が伝えられて万事休す……。

最後までアクセルを緩めず走り続けた#81ト部は9秒差の圧勝に。「冷えたタイヤの時からプッシュすることができて、スタート後にセーフティカーが出ましたが、その後もうまく離せていったので、満足したレースでした」と#81ト部。逆に悔しそうだったのが、2位の#27徳升だ。「ついていくのがやっとなで、やることはやりましたけど、ちょっと僕にパワーが足りなかったです。僕がオッサンになっちゃったかな、と思いますね」と、苦笑いしつつ語っていた。3位は#6酒井で、4位は#86椎橋が獲得。これに続いた#11植田がジェントルマンクラスで優勝。「前に行く若い子を抜きたかったんですが、最後はタレました、ドライバーが(笑)。もう歳ですね」と語ってはいたが、その表情は満更でもなさそうだった。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト **Formula Beat**

Rank No.	Name
1	81 托部 和久
2	27 徳升 広平
3	6 酒井 翔太
4	86 椎橋 祐介
5	11 植田 正幸
6	16 ISHIKEN



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト **Gentleman**

Rank No.	Name
1	11 植田 正幸
2	3 船井 俊仁
3	0 渡邊 義人
4	22 みきてい
5	76 松本 隆行
6	21 村瀬 和也

Super FJ Round 2



全7戦で争われるスーパー FJの筑波・富士シリーズ第2戦は、うち2戦が舞台となる富士の今季初戦となった。開幕戦ウィナーの#73セドラ船戸アレックス翔太を抑え、ポールポジションを獲得したのは、「練習から調子は悪くなくて、トップを狙えそうだったので、予想の範疇でした」と語る#15黒川史哉選手。だが、その差はコンマ019秒で、3番手につけた2020年の筑波チャンピオンで、帰新参の#14伊藤駿選手を含めてもコンマ062秒差でしかなく、決勝が三つ巴の戦いとなるのは、もはや必至だった。

実際、そのおりの展開になるも、#73アレックスはスタートに出遅れ、#14伊藤の先行を許す。しかし、2周目に入って間もなく#73アレックスは2番手に浮上、続いてダンロップコーナーでトップにも迫る勢いを見せたが、これは#15黒川がしっかりとガード。なおも3台でのハイスピードバトルが続くも、

4周目に#15黒川が痛恨のシフトミス。これが続くふたりが見逃してはくれなかった。その後は#73アレックスと#14伊藤の一騎討ちとなり、激しく順位を入れ替えるも、最終ラップのTGRコーナーでスリップストリームから抜け出せた感のあった、#73アレックスは前に出られず。これで勝負は決したかと思われたが、パナソニックコーナーで#14伊藤に迫り、ストレートを力強く加速していった#73アレックスは、計測ライン直前で真横に。その差、コンマ130秒！ 開幕2連勝を達成した。

「ずっと最後のことだけ考えて走っていました。だから、最終ラップのTGRコーナーではあえて前には出なかったんです、最後のストレートで抜ける自信はあったので。自信というか、抜き返される可能性もありましたからね。うまくいきました。でも、相変わらずスタートが、ミスったというか、遅いんですよ」と語る22歳の#73アレックスは、父親がスペイン出身のハーフ。速さだけでなく、強さも見せてくれたからには、もう一度富士で行われる6月のレースも期待せずにはいられない。2位は#14伊藤で、3位は#15黒川。そして9番手から#53石井大雅が4位まで順位を上げていた。

ジェントルマンクラスでは#38畠山退三が優勝。#3秋山健也、#47山根一人との激しいバトルを制しての結果だけに「今年からレース始めて2戦目で勝って嬉しいですよ」と語っていた。



RESULT リザルト Super FJ

Rank No.	Name
1	73 セドラフタ アレックス 航太
2	14 伊藤 駿
3	15 黒川 史哉
4	53 石井 大雅
5	55 酒井 翔太
6	22 内藤 大輝



RESULT リザルト Gentleman

Rank No.	Name
1	38 畠山 退三
2	3 秋山 健也
3	47 山根 一人
4	8 野村 大樹
5	25 フェリベ 昌

N-ONE OWNER'S CUP Round 2



もてぎの開幕戦で2位となったディフェンディングチャンピオン、#1阿久津敏寿が練習中のエンジントラブルで予選に出られぬ波乱があったが、それでも予選に挑んだのは91台！相変わらず衰えぬ、N-ONE OWNER'S CUPの人気をアピールした。このうち上位54台が7周のメインレースを走り、55番手以下は4周のフューチャーズレースを走る。

そんな大激戦の中で、レコードタイムを更新してポールポジションを獲得したのは#305谷川達也。GTの経験も持つドライバーだが、だからといって簡単に勝てないのがワンメイクレースの奥深さ。決勝で懸命に食らいついてきたのが、#990吉田裕太だった。1周目こそ#968黒羽啓太郎も続いていたが、2周目になると一騎討ちに。#305谷川に離されないどころか、100Rでは、何度も#990吉田が揺さぶりをかける。

しかし、#305谷川は少しも動じず。最後までトップを守り抜いて、今季1勝目をマーク。「(吉田の)100Rが抜群に速くて、『あれ〜』とか思い続けて走っていました。こっちの方がダッシュは良かったので、大丈夫でしたけど」と語る#305谷川に対し、「これがプロの走りかって、普通にクリーンで、お互いのことを尊重して走れたので、2位で悔しい部分はあるんですけど、いい経験ができたので、次に活かせるように頑張ります」と#990吉田は語っていた。3位は#968黒羽が獲得。



RESULT リザルト N-ONE

Rank No.	Name
1	305 谷川 達也
2	990 吉田 裕太
3	968 黒羽 啓太郎
4	31 櫻井 颯一郎
5	21 川福 健太
6	45 塚原 臣吾

FCR-86BRZ I/II/III
FUJI86 BRZ CHALLENGE CUP
Round 1



従来のN1車両で争われる86&BRZと、ナンバーつき車両で争われるFCR-86BRZが今年からジョイントして、N1の新型がIクラス、旧型がIIクラス、そしてナンバーつきはIIIクラスに。さらにチューニングカーによる富士86BRZチャレンジカップの4クラスとも混走になった。

ともあれ、さまざまな仕様の車両が走る中、予選上位は#52竹内「レジェンド」浩典を筆頭にIクラス勢が上位を独占。+400ccの余裕とスリックタイヤの威力を見せつけた。ただ実際にはチャレンジカップJP-2Sクラスの#32宮崎邦紘が2番手タイムを出していたが、ピットレーンの速度超過と複数回の走路外

走行のペナルティで9グリッド降格に。どこまで追いかけてくるか注目された。

決勝は#52竹内のひとり舞台。「35年ぶりに富士チャンピオンレースで勝ちました！去年は賞典外で、正式に勝ったのは89年のAE86以来、たぶん(笑)」という。その後方ではIクラスの#51田畑勇と#5松下浩平が競っていたが、件の#32宮崎がわずか2周で追いつき、5周目には2台の前に。見事デビューウィンを達成した。「予選でいろいろあったんですが、なんとか巻き返して元のポジションに戻れたので良かったです。今後、気をつけます(苦笑)」と#32宮崎。

JP-3Sクラスでは、3番手から#183古田聡がスタートでいきなりトップに浮上。これを#72堀シュンジが追いかける格好に。実は#183古田のマシンはあえてリミッターをカットしていない仕様。コーナーの速さで#72堀を抑えていたが、8周目でついに力尽きた。「速いところが全然違っていたので、抜くのが難しかったです」と#72堀。

IIIクラスではディフェンディングチャンピオン、#338角谷昌樹が圧勝。クラス4番手から#23 YOSHIKIがスタートで2番手に上がるも、最後まで寄せつけず。クラス移行も検討していた#338角谷だったが、「今もまだ悩んでいる最中です。クラスではぶっちぎりでしたが、もっと楽しくできるカテゴリーがあったら出たいなと思っています」という。なお、IIクラスでは孤軍奮闘の#7宮崎恭一が、無事完走を果たしている。

そしてJP-4Sクラスも#564柴田明成の圧勝。ただ、「違うクラスの人と混じって走って、前に出なかったんですけど、うまく抜けなくて反省しています」と本領発揮ではなかったようだ。



RESULT リザルト FCR-86BRZ I

Rank No.	Name
1	52 竹内 浩典
2	51 田畑 勇
3	5 松下 浩平



RESULT リザルト FCR-86BRZ II

Rank No.	Name
1	7 宮崎 恭一



RESULT リザルト FCR-86BRZ III

Rank No.	Name
1	338 角谷 昌紀
2	23 YOSHIKI
3	33 米田 利唯
4	904 青柳 貴明
5	17 吉成 公一
6	100 鶴田 康仁



RESULT リザルト 2S

Rank No.	Name
1	32 宮崎邦紘
2	16 ISHIKEN
3	241 鈴木貴大
4	3 小野明則



RESULT リザルト 3S

Rank No.	Name
1	72 堀シュンジ
2	183 古田 聡
3	28 鈴木康史
4	43 常盤岳史
5	726 勝又臣補
6	63 Lam Geoffrey



RESULT リザルト 4S

Rank No.	Name
1	564 柴田明成
2	36 長谷川英裕
3	86 相原泰祐

AE111/N1400
NEOHISTORIC I/II
Round 1



昨年から設定されたネオヒストリックは、IとIIクラスに細分化。IクラスはNA1600とシルビア・アルテツァで、従来のそれ以外がIIクラスで競われることに。またIIクラスはAE111とN1400の混走となった。

ポールポジションはIクラス、NA1600の#37秋元優範が賞祿の獲得に。驚くべくはAE111で昨年も第1戦で勝っている、#98小松響が2番手につけていたことだ。その一方で、もう1台のNA1600を走らせる#64矢島篤は予選でエンジントラブルに見舞われ、無念のリタイア。なお今回、シルビア・アルテツァは出場していない。

決勝はローリングスタート。蹴り出しの良かった#98小松が一瞬、#37秋元に迫るも、1周回ってくればもはや敵とはなり得ず。「最初から最後まで同じタイムで走れるよう心がけていました。NAは、いつエンジンが壊れるかわからないので、それだけは気をつけていました」と#37秋元。一方、引き離されてしまったとはいえ、AE111クラスでは#98小松が優勝。「スタートで

ちょっと詰まっちゃって、少し危ないかなというところがあったんですが、そこを乗り越えてからは問題なく走れました」と#98小松。

ネオヒストリックIIクラスの優勝は、AE86の#240山口崇で、クラスでは圧勝。AE111勢について周回を重ねていたが、「抜こうかと思わず、2番手争っていたので、邪魔しないようについていだけでした。車は調子良くて、気持ちよく走れました」と#240山口。今回は他にN1000クラスのSCP10ヴィッツも参戦、#61平田剛が先にチェッカーを受けている。

一方、N1400クラスとしては初のローリングスタートとなったことで、戸惑ったドライバーもいたようだ。鋭いダッシュを決めた昨年の全勝王者、#21大竹直にクラス2番手の#3山田大輔がついていけず(ついていかず?)。スタート直後の1周で築いたリードを最後まで守り抜いた。それでも「違うクラスの車に、裏で5周目まで引っかかっていて、でも直線では抜けないから、だったら邪魔しないように」と、#21大竹にも苦労があったよう。



RESULT リザルト AE111

Rank No.	Name
1	98 小松 響
2	74 大沢 雄哉
3	18 塩岡 雅敏
4	91 船本 周一
5	72 高橋 ノボル
6	32 松川 智泰



RESULT リザルト N1400

Rank No.	Name
1	21 大竹 直
2	3 山田 大輔
3	5 水谷 明彦
4	26 サイトウカズミ
5	2 小野田 篤士
6	59 加藤 隆始



RESULT リザルト NEOHISTORIC I

Rank No.	Name
1	37 秋元 優範



RESULT リザルト NEOHISTORIC II

Rank No.	Name
1	240 山口 崇
2	40 柳本 文彦
3	41 中村 徹
4	35 望月 守
5	61 平田 剛
6	62 河合 宏太

ROADSTER CUP
1.5/1.6/1.8/2.0
Round 1



今年も6クラス混走で争われるロードスターカップ。予選では1.5 Open勢がトップ3を占める中、その頂点に立ったのは昨年4戦4勝の#23 山本謙吾だ。レコードタイムも更新して、#10国分務、#20佐藤文昭を従えた。総合4番手で2.0 Openトップの#77長岡哲也もレコードを塗り変えていた。1.8のトップは#8関野大志で総合7番手、そして1.6のトップは竹田幸一郎の車を借り受けて参戦の#34永野裕介だった。1.5 Challengeは#29鷲尾拓末が、#50田中悠太を従えてトップを獲得。

決勝では#23山本が1コーナーへのホールショットを決めた一方で、+500ccの威力を発揮した#77長岡が2番手に浮上する。1周目こそ#77長岡を1秒7引き離れた#23山本ながら、次の周のストレートでかわされてしまう。それでも3周目のGRスーブラコーナーで抜き返すも、1周堪えるのが精いっぱいだった。最後は3秒近く離して総合優勝を飾った#77長岡は「パワーです、パワー!でも、ちょっとミスしたらダメだったんで、追いつかれ

ちゃうから。ワンミスどころか、ちょっとしたミスが許されないレースでした」と振り返った。一方の#23山本は「セットを外したんですよ。タイヤの状態がいうちはごまかせていましたが、悪くなってからはダメでした」と苦笑いしつつも、足掛け3年の7連勝を達成した。。

1.8は#8関野が逃げ切り成功。「運良くND勢が間に入ってくれたので、なんとか逃げられました。今年はもう(チャンピオンを)狙っていきたいと思います」と力強い宣言が。1.6は#27野木強の逆転優勝。最後まで続いた#34永野との一騎討ちをコンマ1秒差で下していた。「予選が6番グリッドも先で、もう手応えないわと思いつつ、この結果。上出来です」と#27野木。1.5 Challengeは#29鷲尾の先行逃げ切り。だが、#50高橋を引き離せなかったのは「後ろを気にしすぎちゃって、自分のペースで走れなかったのと、序盤にタイヤ使いすぎちゃいました」と反省も。「優勝は昨年のパーティレース東日本シリーズ最終戦以来」と語った。



RESULT リザルト 1.5 Open

Rank No.	Name
1	23 山本 謙吾
2	20 佐藤 文昭
3	10 国分 務
4	7 茂木 文明
5	79 杉浦 良
6	14 ジョニー小倉



RESULT リザルト 1.5 Challenge

Rank No.	Name
1	29 鷲尾 拓末
2	50 田中 悠太
3	254 小野 佳寿美
4	41 八田 新一
5	153 成井 カヲ
6	80 臼井 達哉



RESULT リザルト 1.6

Rank No.	Name
1	27 野木 強
2	34 永野 裕介



RESULT リザルト 1.8

Rank No.	Name
1	8 関野 大志
2	91 神谷 誠
3	11 松浦 健
4	55 澤田 薫
5	2 竹田 幸一郎
6	4 松下 知己



RESULT リザルト 2.0 Open

Rank No.	Name
1	77 長岡 哲也
2	96 遠藤 幸和

LOTUS CUP JAPAN Round 1



今季初戦のロータスカップジャパンは、Wヘッダー開催。予選で長らくトップに立っていたのは#10清水友一だったが、アタックを終えてピットに戻った直後に、#15荒田良浩がラストアタックを完璧に決めて逆転。ポールポジションを獲得した。クラス2では#88坂田元憲がトップだった。

決勝レース第1戦で好スタートを切ったのは#10清水。しかし、#15新田も遅れることなく続き、逆転の機会を待ち続ける。すると7周目、「これは行けるぞと思って頑張っていたんですけど、ダンロップコーナーで突っ込みすぎちゃって」と#10清水。当然、#15荒田が見逃してくれるはずもなく、8周目のコカ・コーラコーナーで前に行かれてしまう。それでも最終ラップのTGRコーナーで逆転し、コカコーラコーナーでしっかりガードした#10清水が、まず1勝目を挙げた。「最後にチャンスがまた来て良かった。楽しかったです」と#10清水。3位は、久々のスプリントレース出場となった#2桂伸一が獲得した。

クラス2では#88坂田がスタートに出遅れ、3番手だった#24長澤宏昭がトップに浮上。3周目のTGRコーナーで#21佐藤久実がトップに立つも、そのまま逃してくれなかったのが#88坂田だった。4周目にトップに立って逃げ切り成功。

「スタートは失敗したというか、僕だけNAなんです。なので、150kgぐらい軽いんですけど、30馬力ぐらい少なくて。スタートはやっぱり想定の上でしたが、あんな見事にいっぱい行かれるとは思わなかったですね(笑)。でも、『出ましようよ』って声をいっぱいかけてもらって、9年ぶりのレースで勝てて良かったです。今後は出られたら出ますし、あるいは僕の代わりに出られる方がいれば、サポートしたいと思います」と#88坂田。2位は#47飯田敏雄が獲得。8周目のストレートで#21佐藤を抜いたが、その時すでにトップは遥か彼方。プレッシャーをかけるまでには至らなかった。



RESULT リザルト **Class 1**

Rank No.	Name
1	10 清水 友一
2	15 荒田 良浩
3	2 桂 伸一
4	38 佐原 弘恭
5	22 東 浩平



RESULT リザルト **Class 2**

Rank No.	Name
1	88 坂田 元憲
2	47 飯田 敏雄
3	21 佐藤 久実
4	24 長澤 宏昭
5	20 西川 昇吾

第1戦の結果でグリッドが決められた第2戦では、#10清水がポールスタートに。今度は#15荒田ともども好スタートを切り、またも接近戦を繰り広げた。だが、ワンチャンスをしっかり活かしたのが#15荒田だった。4周目のTGRコーナーで#10清水に並び、コカ・コーラコーナーで完全に前に。終盤には振り切って「これで1勝1敗です。最後まで(タイトルを)争うと思いますから、まだまだ頑張ります」と、#15新田は語っていた。

クラス2は#88坂田がスタート直前にエンジンが切れ、ピットスタート

となる波乱の展開に。またも#24長澤がトップに立つが、2周目のTGRコーナーで#21佐藤が再度前に。いったんは2秒の差をつけるも、じわりじわりと迫ってきたのが#47飯田だった。そして6周目のTGRコーナーで逆転。「去年出ていなかったし、車を一昨日換えて、やっと走らせ方を思い出しました。すごくクリーンで面白いレースでしたね」と#47飯田。#21佐藤、#24長澤の順でゴールしたが、ふたりの背後にはなんと#88坂田が！あと1周あったら、まとめて抜かれていたかもしれない。



RESULT リザルト **Class 1**

Rank No.	Name
1	15 荒田 良浩
2	10 清水 友一
3	22 東 浩平
4	2 桂 伸一
5	38 佐原 弘恭



RESULT リザルト **Class 2**

Rank No.	Name
1	47 飯田 敏雄
2	21 佐藤 久実
3	24 長澤 宏昭
4	88 坂田 元憲
5	20 西川 昇吾



BMWのM2 CSRとMINIのJCW、CPSの共催となるBMW & MINI Racing。M2 CSRで2連覇を達成した水元寛規、2位の奥村浩一が卒業を果たしたことで、覇権争いがまた新たに。その状況において、ポールポジションを獲得したのが、#55石井一輝だった。

MINIのJCWではチャンピオン#1木村建登に、新規参戦の#500山本聖渚が真っ向から立ち向かい、シーソーゲームの末にトップタイムを叩き出す。そしてナンバー付きのCPSでは#7豆野天星がトップとなった。

決勝レース1では、#55石井がスタートに出遅れ、予選3番手の#50神頭政志の先行を許してしまう。それでも序盤はトップに食らいついていた#55石井だったが、内圧調整の失敗が響き、徐々に引き離されたばかりか、最終ラップに#25田中瑞起にもかかわされていた。逃げ切った#50神頭は「後ろの石井選手が速いのは分かっていたので、ブッシュ、ブッシュしてミスは誘いました。はい、初優勝です！」と喜びの様子を隠さず。

一方、JCWでは#500山本が最後まで#1木村を抑え切ったが、スタート手順違反のペナルティで5秒加算され、順位を入れ替えることに。「運が僕にあったのかな、それだけです」と#1木村は勝ってなお、そうきっぱり。そしてCPSでは、#7豆野が終始単独走行。「最後の方はタイヤを温存しながら、後ろの距離を見ながらレース運ばせていただきました。次もいいバトルして最低限、表彰台目指して頑張ろうと思います」と語っていた。



RESULT リザルト M2CS Racing

Rank No.	Name
1	50 神頭 政志
2	25 田中 瑞起
3	55 石井 一輝
4	710 星野 雅空
5	47 舟越 裕介
6	46 加藤 沙也香



RESULT リザルト JCW

Rank No.	Name
1	1 木村 建登
2	500 山本 聖渚
3	3 とうりな
4	36 定村 吉高



RESULT リザルト CPS

Rank No.	Name
1	7 豆野 天星
2	31 中澤 卓也
3	73 ジュンクーバー
4	5 大堀 佳祐
5	101 One chan
6	193 吉田 一球

レース2はM2CSRとCPSが上位4台の、そしてJCWが上位2台のリバースグリッドとなり、ローリングスタートでのレース開始となった。レース1が4位だったことでポールスタートとなった#710星野雅空が、そのアドバンテージを活かし、最後は20秒近い大差で初優勝を飾っている。「公式戦は初めてで、今まで草レースとドリフト、冬のタイムアタックをやっていました。レース1でスタート失敗したので、タイヤを温存していたのが良かったんだと思います」と語る#710星野は、まだ18歳というからこれからが楽しみ。

JCWではペナルティのおかげで(?)、トップからスタートが切れた#500山本が今度こそ優勝を飾った。「ホッとしました感じです。車の課題も見つかったので、いいスタートは切れたと思います」とは本音のはずだ。

そしてCPSでは、#7豆野が4番手スタートながら、8周目にはトップに立ち、そのまま逃げる展開で2連勝を飾った。「優勝はレース1が初めてで、今回も着実に走れば結果は残ると思っていたので、良かったです。このままシリーズを優位に進められればいいですね」と安堵の表情を見せた。



RESULT リザルト M2CS Racing

Rank No.	Name
1	710 星野 雅空
2	70 片山 剛
3	50 神頭 政志
4	47 舟越 裕介
5	46 加藤 沙也香
6	60 阿部 良太



RESULT リザルト JCW

Rank No.	Name
1	500 山本 聖渚
2	1 木村 建登
3	3 とうりな
4	36 定村 吉高



RESULT リザルト CPS

Rank No.	Name
1	7 豆野 天星
2	31 中澤 卓也
3	5 大堀 佳祐
4	73 ジュンクーバー
5	38 中村 進
6	193 吉田 一球